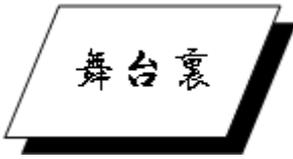


<JOYニュース 舞台裏>



生まれつきそそっかしいというか不注意な小生だが、馬齢を重ねてますますその傾向が強くなった。もう一〇年以上前のこと。翌日の講演のためにスーツを持って新幹線で小倉に出かけた。そのスーツを網棚に載せたまま、改札を出て気づいた。その時は幸い翌日になってスーツは戻ってきた。二年前、今度は山手線の網棚に知人への土産を忘れた。山手線では出てくるものも出ないとの思いはその通りであった。やはり数年前、車椅子の老女を路上で介助していて携帯電話を落とした。きっと届くと信じ待っていたが3日後に交番に届けたが、出てこなかった。昨年春の京都駅のこと。新幹線から降りてホーム上で網棚のコートとマフラーを思い出した。振り返りざま出発を告げる車掌に忘れ物を告げ、飛び乗って回収しのぞみ号の出発前に事なきを得た。ただ、おかげで狭心症の発作が起きてしまった。

昨年の誕生日に還暦の記念に頂戴したブランドの財布を無くした。路上かタクシーの中かはわからない。やはり出てくると信じたがいまだに出ては来ない。現金よりも記念の財布そのものに戻ってほしい。拾った者は携帯電話や財布など落とした本人は困っているだろうとは思わないのだろうか。小生の考えが甘いのだろうか、ネコババするような者は頭から相手の困り感など微塵も思わないだろう。先日山手線の中でふと足元を見ると黒いUSBメモリーが床の上に落ちていた。座席にはすべて乗客が据わり、つり革をつかんでいるのは小生と他数人のみ。拾おうかどうしようかとそわそわしながら落とした人は困るだろうと気になって仕方なかった。目の前に座る若い男女は何も気づいてないようだ。拾ってデータを読むと持ち主はわかるだろうか、何とか届けないと本当に困るだろうと妄想しきり。しかし拾う動作は目立つので気恥ずかしい。5分ほどの小さな葛藤の後しゃがんで拾い上げると角張ったプラスチックのケースにはHB0.4 mmとかかかれていて、シャーペンシルの芯ケースであった。

法人 理事長 緒方克也